

稲山会 通信

第 4 号

2000年8月1日発行

発行人：箕打達郎 発行所：稲門山の会事務局 TEL03-3367-3723 FAX03-3367-8150 ©稲門山の会1998

役員会より

今年4月、OB会の代表を大国恒雄氏から市村栄一氏へとバトンタッチしました。幹事も一部入れ替えを行いました。新メンバーは以下の通りです。

代表 市村栄一 副代表 井村英明 新井昭夫
幹事 大国恒雄 宮沢壮介 早川正 関根聰一郎 箕打達郎 名達一彦
亀田吉史 本田伸樹 西山透

このメンバーでこれまで同様に頑張りますので、よろしくお願いします。

市村栄一新代表より

近頃、何かと皆さん良くお集まり頂けるようで、イベントがあるのを楽しみにしております。現在、現役の諸君を集めるのに腐心しております。何か良いお知恵がありましたら、事務局までは是非ご一報下さい。稲門山の会は無論のこと早稲田大学山の会もずっと続けていきたいと願っています。

早稲田大学山の会大ピンチ！

現在、現役の山の会は部員ゼロ。会存亡の危機に立たされています。ここ数か月の経過をご報告します。

4月上旬 現役部員がゼロとなり、活動が停止していることが判明。

4月中旬 現役の状況を調査。

5月9日 顧問の池岡先生を招き、緊急役員会。以下のことを確認。

- ・会継続の手続きを行うー濱田政則先生（理工学部教授、山の会OB）に協力をお願いする。
- ・今年も池岡先生に顧問をお願いし、協力していただく。

5月12日 濱田研の学生さんの名を借りて、会の継続手続きを終了。

5月17日 濱田研にて会合

- ・名前を貸してくれた学生さんにお礼。
- ・最後の山の会部員佐藤君（政経学部5年）に今後の協力を依頼。
- ・新学生会館の部室確保手続きを行う。（1号館5Fの部室は撤去の予定）

5月25日 濱田研にて会合

- ・濱田先生にこれまでのお礼。
- ・濱田先生と若いOBを中心に集まりをもつことを決定。

6月13日 役員会

- ・今後、新部員の加入をはかる。

以上のように、多くの方の協力を得て、今の所、現役山の会は存続しています。

現役の状況

笹山紀行

98年の夏、息子（高1）と南アの笹山をめざした。田代入口から二軒小屋へ向かう単独行者の後を追った。内河内川沿いの路はかつて支尾根越えより時間を要した。伝付峠の水場横の作業小屋に1畳分の床があり、2人で横になった。

2日目、2人で9リットルの水を背負った。伝付からの林道歩きが奈良田越まで続き一部は崩れていた。蝙蝠岳など南アルプスの巨峰を横に見ながら、カモシカに遭うほかは静かだった。奈良田越の手前で林道は大井川に下り、越への草深い踏跡を見落とすところであった。奈良田越は、朽ちた小屋跡と錆びた索道跡があるのみだった。前に越えた路は廃道となっていた。少し直登して白剥山への路へ合流した。白剥山は樹に覆われていた。路は次第に不明瞭になり岩礫帯を拾って進んだ。踏み跡はハイマツ下に消えた。笹山に近づくるとハイマツが2mを越える密藪となった。空身になって枝から枝へと飛び移ってみたが、しなやかに撓んで藪の中に倒れたり、逆さまになったり、トランボリンのように面白くはあったが、時間と体力を浪費した。目測あと40mの地点で断念し、斜め下方の樹林帯へ迂回した。稜線に至ると頂に戻る踏み跡を見たが、日暮れ迫まり、翌朝とした。泊場は1m四方の平地だった。夕暮れと雨がきた。

3日目は雨に明けた。計画が白根三山越えの高嶺までと先が長いので笹山登頂を断念した。気温は10℃あったが風に冷えた。白河内は台地状で、前後の山稜もなだらかな2重山稜だった。霧雨中、歩きやすいルートを探して歩くうちにリングワンデリングしかけていることに気付いた。時間をロスしたが息子を心強く思った。風で視野が狭められ25年前の大籠岳のテントスペースは見出せなかった。広河内岳の登りはきつかった。息子はザックカバーを風に飛ばされた。雨が小止みになり農鳥岳の基部が見えてきた。大門沢下降点にはかつて3日間風雨に耐えた跡があった。逡巡の後、大門沢を下った。

10月末、退職して、逆のコースで試みた。高嶺ピストンを済ませ、北岳を越え、間ノ岳の下りで血尿が出た。退職間際の無理が祟ったのだ。農鳥岳は悪寒で越えた。大門沢下降点で再び撤退とした。気持ちを残し、奈良田まで雨だった。（笠原 豊 S.39）

山とスキーの会（3月10日～12日）

何年か続いた尾瀬岩鞍を離れ、今年は関温泉へ。例年通り、目白学習院前を8時に出発、関温泉着は、12時半過ぎであった。

宿は、越前屋といい、階段は急、部屋は天井は高いが何もなくながらんとしているといった古い旅館。当初予定した旅館が都合悪くなり、その旅館の手配だったためか受入れ体制が良くない。タオルや浴衣の準備が出来ていなかったり、上がり湯が出ない（夜中だった）など第一印象は良くなかった。

スキー場はリフト4本。1本は少し離れた所にあるうえに、一旦スキーを外しかついで登らなければならない。他の3本のうち1本は休止、他の1本は上級者コースでスキーで滑っている人はほとんどいない。いきおい残りの1本をひたすら滑ることになる。昔の人が、「昔のスキー」と嬉しそうに言っていた。翌日は、12時までだったが、1日券を買って滑っている人が何人もいた。60歳を過ぎても皆さん元気だ。

帰りのバスでは、来年もこのスキー場、この宿ということになっていた。

第一印象は悪かったのに何が良かったのか。リフト待ちがほとんどなかった。ゲレンデが近く宿のはすむかいまで滑り降りられた。スキー場に喧騒な音楽が流れていなかった。宿の食事美味しかった。こんなことが多少の不便さを吹き飛ばしたようだ。

今年の参加者は、バス40名と現地参加5名の計45名。来年も2月末か3月上旬を予定していますので、皆様是非参加して下さい。夜はプロのマジシャン（山の会OB）のマジックがあったりして楽しいですよ。

上高地の会

その旅の始まりは一本の電話からだった。この春屋久島の再訪を計画し、早川に相談の電話をした所「屋久島も良いけど、6月にはみんなで上高地に集まるんだけど…」との事。鸚鵡返しに「行く！」で、話は決まった。

6月10日の朝、新宿南口集合。卒業以来久し振りに会う顔が何人も。宮野さん、角田、清水達と丸の内始発でやって来るチャーターバスを待つ。やがて市村さん、早川達を乗せてバス到着、早速荷物を積み込み出発。今回世話役兼ガイドは早川。ぶどう狩りで賑わう中央道の混雑を避け関越、上信越自動車道経由で上高地へ向かう。あいにくと雲が低く本来なら沿線に豪華絢爛に並ぶ筈だった山々について、はては又日本山岳史のうんちくに至る早川ならではのガイドに堪能するうち、松本着。松本から島々を経て沢渡への道は40年振り、その変貌に驚きの連続。バス一台の巾しかなかったあの頃のガタガタ道に想いを馳せる。釜トンの狭さに何かほっとしながら大正池の畔に至る。早稲田一年生で初見参の頃から池の風情は随分と変わったものの、その上にドーンと現れた穂高の峰々には懐かしさの余りグッと喉の詰まる想い。河童橋を渡りこの度の宿「西糸屋」にデポし、一行30名で明神へのトレックに出発。昔と違い道中の大にぎわいに又々驚く。折りしも小梨の花が、石楠花が、岩鏡が満開の出迎え。明神池の静寂、明神岳にせり上がる新緑のグラデーションに生きていて良かったの感が深い。その夜は大広間貸し切りの大宴会。市村さん、吉沢さんから格別差し入れの美酒に後輩共は時を忘れ、吾を忘れる。途次、山下の近況報告とか、滝沢の十日町市長立候補の予告とか、話題も尽きないうちにタイムアウト、別室の二次会へ流れる。ここでも狭い部屋に膝突き合わせ、肩寄せ合って話し込む間、上高地の夜は更ける。

明けて11日、食い切れない程豪華な朝食の後、岳沢ヒュッテを目指す班と小梨平周辺のブラリ組に分かれて出発。で、今年は三月の大量降雪のせいで残雪が多く、雪渓を大いに楽しんだ岳沢組。久し振りというよりこんなに長時間ゆっくりのんびりと上高地を味わうのは初体験という夫婦参加の上高地組。それぞれに梅雨の晴れ間の上高地、至福の一時を過ごす。おっと、すんでに忘れる所、朝未だ早き明けぬるを篠つく雨をもものかは、焼岳目指して出掛けた広瀬、滝沢、水村、吉田達の別働隊。年そこそこに経たれども、まだまだまだのこの元気。

帰途のバス内は市村さんの独壇場、酒、食い物、東京今昔、そして女の話まで次から次へと果てしも知らぬ楽しい講釈の裡、新宿帰着。次回は9月乗鞍「茸の宴」という事で無事散開。始めから終わりまで行き届いたセットアップの早川ガイドに心から感謝!!

(山口昌之 S.36)



▲明神岳をバックに

稲門山の会 秋の親睦会

北アルプス乗鞍高原茸狩り

茸が豊富な乗鞍高原で、地元の茸狩り、山菜採り、イワナ釣り、熊撃ちの名人福島立實さん（「山と溪谷」にもよく登場）とともに茸狩りを楽しむ。夜は囲炉裏を囲み、茸鍋、イワナの塩焼き、美味しい酒。

目的地 乗鞍高原・乗鞍岳

宿泊 ペンション・チムニー

TEL 0263-93-2902

交通 マイクロバス

*乗鞍ですので小さなトンネルもなく、大型バスで行くことも可能です（40名限定）。

日程 9月23日（土）

1 東京駅丸の内北口 7:17発（集合7:15）

2 新宿駅南口 7:35発

東京ー中央道ー松本I.C.ー乗鞍高原すずらんーペンション・チムニー *茸狩り・ハイキング

9月24日（日）

希望に応じて、以下の2コース

1 すずらんー（バス）ー乗鞍肩ノ小屋ー（60分）ー乗鞍岳山頂ー（50分）ー乗鞍肩ノ小屋ー（バス）ーすずらんー松本I.C.ー中央道ー東京（天候が悪い場合、野麦峠をまわり松本I.C.へと変更する場合があります）

2 乗鞍高原で茸狩りやイワナ釣りなど（帰路は1と同じ）

参加費 23000円（往復バス代、宿泊費、2日目の昼食代を含む、酒代は入っていません）

申し込み・お問い合わせ

株式会社西沢 早川まで

〒111-0053 台東区浅草橋3-20-16

TEL 03-3866-2430

FAX 03-3866-4157

※申し込みはなるべくFAXまたは郵便でお願いします。

住所・氏名・TEL・FAXを正確に記して下さい。

ご家族での参加大歓迎。ふるってお申し込み下さい。

編集後記

1ページ目に書いたとおり、現役山の会は風前の灯といった状況です。この問題に関して、ぜひご意見を下記までお寄せ下さい。

稲門山の会 事務局

〒164-0003 中野区東中野1-25-10 大和ビル第一 オーク編集工房内

FAX 03-3367-8150

E-Mail nada@tokai.or.jp